
赤 潮 情 報

鹿児島県水産技術開発センター
平成 17 年 4 月 18 日

鹿児島湾 No. 1

[1] 4 月 14 日の調査結果

(1) 赤潮生物の出現状況

海潟沖、湾奥部牛根沖～福山沖、国分沖で夜光虫（ノクチルカ シンチランス）による着色域が帯状に確認されました。

全体的に前回調査時（3/22）に比べプランクトンの種類が増加しています。

湾奥部中央、牛根沖及び牛根境沖でシャトネラ グロボーサがそれぞれ 1～3 細胞/ml 確認されました。

なお、ヘテロシグマ アカシオ、シャトネラ マリーナなどの有害プランクトンは確認されませんでした。

(2) 海 況

表層水温は湾奥部で 16.8～20.4，湾央部で 17.0～18.4 となっており、湾央部で平年同時期に比べやや低めになっています。

また、塩分は 32.6～34.5 で平年同時期に比べやや高めになっています。

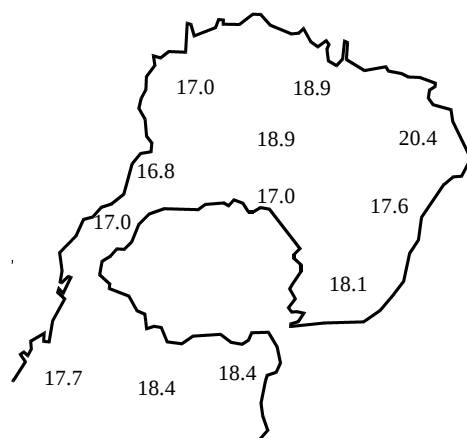
水 温：平均	17.9	湾奥部	18.0	湾央部	17.9
塩 分：平均	33.6	湾奥部	33.3	湾央部	34.4
透明度：平均	14.2m	湾奥部	13.4m	湾央部	16.5m

[2] 今後の赤潮発生の予想

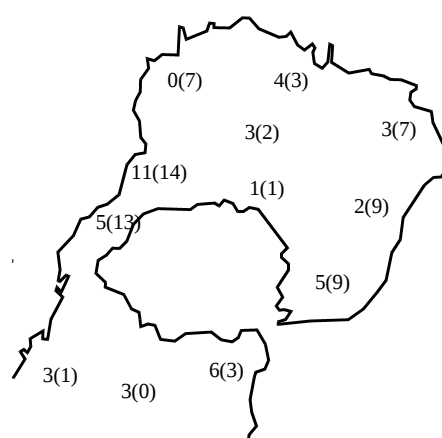
セラチウム属（セラチウム フスス、トリポス、フルカ）が、全体的に確認されました。現在のところ直ちに問題となる数ではありませんが、おおよそ 100 cells/ml を超えるあたりから極端な餌食いの低下がみられます。ヘテロシグマ等と比べ分裂速度がそれほど速くないことから、急激に大規模な赤潮を形成する可能性は低いですが、風や潮流等により急激に集積すること考えられますので、今後は給餌の際、海水の色や養殖魚の状態等に対する十分な注意が必要です。

また、今回の調査ではシャトネラ グロボーサが確認されました。本種の魚毒性については不明な点が多いものの、一昨年水試が行ったカンパチ稚魚に対する曝露試験では、250 cells/ml で若干の忌避行動が観察されています。本種は例年、数十 cells/ml 普通にみられる種ですが、今後水温上昇につれて細胞数の増加が予想されますので細胞数の推移には注意が必要です。

一方、シャトネラ マリーナは、細胞が確認されていないことからしばらくは本種による赤潮の発生はないと思われます。



表層水温（℃）



セラチウム属表層細胞数
[cells/ml, ()内は 10m 層]

赤潮情報：<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/i/index.shtml>

赤潮図鑑：<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/HTML/index.shtml>